

ご自身の体験、経営する学園の実態などが語られた

私学に通う子どもたちの学ぶ権利の保障を超党派で…7.6. 院内集会議員あいさつ

7月6日院内集会では65名の国会議員関係者が参加されましたが、そのうち23名の衆議院議員ご本人が参加され、ごあいさつをくださいました。ご自身の生い立ちの中でのご経験、ご子息を私学に通わせている実感、経営している私学の実態など、私学に関わる具体的な内容でごあいさつを頂戴しました。

院内集会も回を重ねています。国会議員のみなさんも、全国から200名を超えて集まった参加者を目の前に、私学についてのお考えを具体的に語ってくださるようになりました。これまで各都道府県が地道に国会議員の方との関係を築いてきた成果だといえます。初参加の議員さんも、ご自身の経験、私学の良さに触れながらごあいさつくださいました。

木村次郎議員 小川淳也議員 西岡秀子議員 宮本岳志議員 本村伸子議員 重徳和彦議員 宮本徹議員 階 猛議員 三谷英弘議員 青山大人議員 森山浩行議員 神田憲次議員



〈議員あいさつより(大意)2〉…「バイトで学費を稼いだ。そんな事が繰り返されない制度に」(松田議員)、「私学教育の役割を考え、格差をなくす制度を」(佐々木議員)、「経営する私学では年収250万円未満が40%。これを何とかする制度を」(荒井議員)、「学生数が減ったら削減するような制度でなく誰もが学べる制度へ」(畑野議員)、「私学の生徒はあいさつが違う。そうした独自性を応援する制度へ」(田中議員)、「チルドレンファーストの施策が必要。一人一人が道を切り拓ける制度に」(大河原議員)「私学人として無償化をすすめたい。財源問題の検討が必要」(左藤議員)、「文科省の贈賄問題が私学助成に影響しないようにしたい」(黒岩議員)



玉木雄一郎議員 松田 功議員 佐々木隆博議員 荒井聡議員 畑野君枝議員 田中和徳議員 大河原まさこ議員 左藤章議員 黒岩宇洋議員

高校生・保護者の
ナマの声を議員へ

国会議員さんのごあいさつ後、参加者からの発言を求めました。東京の大東学園の生徒さんからは「家の経済的な変化で退学する仲間がいる。憲法26条では学ぶ権利は経済的な理由で差別されない事になっているが、実態は違う。この状況を変えるために、学園では3者で私学助成署名に取り組んでいる」と力強い発言がありました。また、愛知の保護者からは「目前のサマーセミナーをはじめ数々の『つどい』『フェスティバル』へ議員を招待し、子どもたちの実態を知らせ、私学助成の拡充を訴えている」という発言がありました。また、フロアの東京の保護者から「東京では『無償化』したと言われているが、施設設備費の大きな負担が残っている」という実態についての訴えがありました。

財務政務次官への直接要請が実現!! 7.6 中央要請行動

院内集会終了後、参加者の各県出身議員要請に訪問と並行して、文部科学省、財務省、総務省、内閣府、全国知事会と各政党本部などへの中央要請行動に取り組みました。内閣府は門の守衛さんに要請書を渡すのみ(行ってみたら玄関で係への手渡しに)という対応だったのに対して、文部科学省へ私学助成係長が応対し多数の要請ハガキを受け取ってくれました。

更に、予算編成に大きな権限を持つ財務省では大臣政務官への直接要請が実現しました。これは愛知高フェス出身の今枝議員が現在財務大臣政務官の任に就いておられ、議員自ら「すすめる会事務局」へご連絡くださった処での実現です。「愛知からの保護者だけでなく全国の保護者の方もどうぞ」とのお誘いに甘え、北海道、青森、千葉、新潟、福岡からも参加。各県の実態をお伝えした処、「生の声を聴けて良かった。思いは同じと感じている。財源をどのようにするかという問題はあるが努力していきたい」という回答を頂戴しました。

